

【学校の教育目標】

誇りをもって 進んで やりぬく子

よく学ぶ子 心のやさしい子 体のじょうぶな子

【児童の実態】

- 無回答率が低く、基本的な計算問題はできる児童が多い。
- パターン化されたものについては説明できる児童が多い。
- 図や式など、自分の考えの書き方が分かるようになってきた児童が多い。
- 図と式をつないで理由を説明することができるようになってきた。
- △単元ごとに学習した時は図と式をつないで説明することができるが、時間がたつと忘れてしまう。
- △分数や小数が含まれる計算（特にわり算）が弱い。
- △数量や図形についての感覚が十分でないため、生活に生かすことの難しい児童が多い。
- △文章を読んで必要な情報を抜き出し、立式することが苦手な児童が多い。

【願う児童の姿】

- ・具体物や図を指し示しながら、図と式をつないで自分の言葉で説明することができる。
- ・算数用語を用いて、自分の考えを筋道立てて説明することができる。
- ・既習内容とつなげて考えることができる。
- ・分数や小数が含まれる計算を正しくすることができる。
- ・複数の情報から、必要な情報を読み取ることができる。
- ・自分の考えを仲間の考えと比べながら聞いたり、仲間に伝えたりしながら考えを深めることができる。
- ・数量や図形についての感覚を豊かにし、生活に生かすことができる。
- ・数とその表現や数量の関係に着目し、数直線図や線分図など、目的に合った表現方法を用いて表すことができる。

【実践主題】

「分かった!」「できた!」「楽しかった!」が実感できる学習活動

【実践内容と具体的な手立て】

【実践内容① 個別最適な学びの視点】

(1)具体物、半具体物の操作

- ・事象、数や量の確認や比較・検討をすることで、問題設定の場面状況をより正しく理解し、課題解決の見通しをもてるようにする。

(2)終末での児童の姿の明確化★

- ・終末で、どの問題を、どのように解けたらよいのかを明確にした授業づくりを行う。

(3)習熟時間の工夫

- ・評価問題を段階的に提示したり、定着度に応じた問題を用意したりして、学習内容がしっかりと身に付いているか定着を図る。

★2025年に重点的に実践する内容

【実践内容② 協働的な学びの視点】

(1)交流活動の工夫★

- ・何のための交流なのかを明確にし、ペア交流やグループ交流等の活動を通して、考えを深められるようにする。

(2)言語活動の工夫

- ・自分の考えを分かりやすく仲間に伝えたり、仲間の意見を自分の考えと比べながら聞いたりすることができるようにする。

(3)話型の活用

- ・自分の考えの根拠を明確にし、順序立てて、算数用語を使って話すことができるようにする。

(4)まとめ、振り返りの場の設定★

- ・課題に対する自分なりの解決を振り返る場を位置付け、自分でその時間の学びを振り返ることができるようにする。

【特別支援学級 実践内容①】

教材や単元構成の工夫

(1)教材の開発

- ・子どもたちが意欲的に取り組める題材や教材を開発する。
- ・教科の本質と、子どもの発達上の課題を考え合わせて、子どもたちにとって最適な教材や教具を工夫する。

(2)単元構成の工夫

- ・子どもたちの意欲を持続させるために、単元の構成を工夫する。
- ・身に付けたことを、様々な場面で生かせるような単元指導計画を工夫する。

【特別支援学級 実践内容②】

支援の工夫

(1)学習環境の充実

- ・人的環境、物的環境を整備する。
- ・体験的な活動を位置づける。
- ・視覚的な支援を工夫する。
- ・ICT機器の活用をする。

(2)まとめ、振り返りの場の設定

- ・自分や仲間の成長を確かめる振り返りを位置づける。
- ・個に応じたためあての設定と評価の工夫をする。
- ・終末の評価と、適宜行う評価の工夫をする。